

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが、でも複数回を並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないか。「はたらく」から若者の今を見つめます。



これまでこのシリーズでは、一般的に考える「働く」だけではない、様々な若者を取り上げてきました。今回は、子育ても「はたらく」なのではないか、20代で妊娠・出産を経験された米田さんに話を聞きました。彼女にとっての「はたらく」とは。

米田 暁子さん(20代)

**妊娠・出産までの話を聞かせてください。**

京都で保育士資格を取り、卒業後は地元九州で保育士として就職しました。

そのため、主人とは大学時代から付き合っていました。九州と中国地方で遠距離になることになりました。もし結婚することになったら退職して引っ越すことになるので、1年で退職すると再就職先を探すときに不利になるんじゃないかと思いつ、2年間はちゃんと働いて経験を積もうと話しました。

その間お互いに行き来することもあれば、岡山や広島で会うたりもしていました。LINEとかもしていました。結婚をしっかりと考えてではなく、縁があったらそんな感じになって話していたくらい(笑)。そんなとき偶然主人が転勤で、車で10分の距離に引っ越すことになったのを機に結婚しました。

**すぐに子どもが欲しいと強いていたんですか？**

結婚してすぐはできたらいいねってぐらいでした。でも「ほしい」と思っただけでできるわけじゃないから話を聞いて真剣に考えるよう

になりました。それもあって早く子どもを授かることができました。仕事の方も、妊娠をきっかけに引っ越しを決めたので、丸3年勤めて保育士の仕事を退職することになりました。

**どんなタイミングで関西に引っ越したんですか？**

これも子どもを授かったことがきっかけで、主人が不規則だった仕事から土日休める規則的な仕事に転職を考えてくれました。その転職先が関西だったので、帰ってくる形になったのですが、産まれてすぐ長距離の引っ越しは難しかったので落ち着くころを考えると3カ月くらい別々に暮らしていたこともあります。

**出産されてからはどんな生活でしたか？**

産んでしばらくはほとんど眠れなかったです。ミルク、おむつ、かまってほしいのひたすらくりかえし(笑)。1時間くらいしか寝れてないんじゃないかってときもありました。

母親が集まる場にも行ってみましたが、地域柄もあってか30代

の方が多くて。「平成生まれ？若いー！」って言われるような状況でした。だから友達っていう感じはしなかったですね。そういうのに疲れたこともあって、家に居ることが多かった。余計に閉塞感がありました。子どもが少し大きくなって公園に行っても、子ども同士が友達で、その母親という付き合いがあったので、私の友人ではないというか……。難しいんですが、大学の友だちとはやっぱり違います。たね。その場で会ったら話す関係みたいな。

子どもも家と外では違って、外では挨拶もできるいい子って言われるんですが、家での様子と違う(笑)。保育士のときにお母さんが「家にいるときと全然違うんですよー」って言うていたのがすごくわかった気がします。

それに保育士として働いていたときは、毎朝出勤したらたくさん子どもたちと関わっていくけど、仕事が終われば自分の時間になるじゃないですか。実際母親になったら自分の子の人生を背負っているし、自分の時間が母親の時間になりました。

保育士としての知識の面でも、

発達の過程など少し役に立ったこともありましたが、そればかり言われるのはちょっと違和感があった。戸惑うことも多いです。先月も長男が40度の熱を出して大変だった。

**職場復帰とかは考えていますか？**

子ども達が小学校に入って落ち着いたらまた働いてみたいとは思いますが、でも保育士にこだわりはなくて、家で過ごせるうちに他の資格を取ったら視野が広がるんじゃないかと考えています。まだ考えるだけで何もしていません。(笑)。

**あなたにとって「はたらく」とは？**

日常になるということかな……。先日子どもたちを任せて結婚式に出たとき、ひさしぶりの自分の時間ですごく解放感があった楽しかったんですが、同時に少しそわそわしたんですね。子どもと一緒にいることがもう日常になっていて、いないことが非日常みたいな。

なので、当たり前前に日常に溶け込んでいくものであり、無くてはならない存在です。